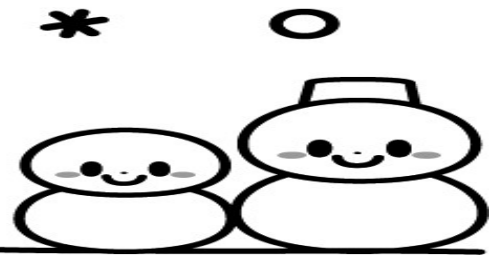




2月

令和6年2月1日

ちびっこの森通信 vol. 81



☆☆今月のテーマ☆☆



- ・ 鬼の話、厄払いの話等に興味を持ち、豆まきを楽しむ
- ・ 厳しい冬の現象に触れ、興味や関心を高める



ひよこぐみ(0歳児)だより



年明けは元気潑刺な姿で登園してくれ、寂しかった年末近くの園に活気がようやく戻り、今年1年のスタートを切ることができました。まずは、園恒例の凧揚げ、福笑いやだるま落としなどで初笑いのお正月遊びをしました。みんな大好きなアンパンマンキャラクターの顔に目や鼻などを思い思いにペタン、ペタンしてお気に入りの表情に仕上げ、お互いに「見て、見て」アピールで盛り上がっていました。ダルマ落としは流石に難しかったようで最後はダルマ叩きへと趣向を変えて楽しんでいました。最近、「あ〜」や「だ〜」などの発語が頻繁となり、それに呼応すると嬉しそうな笑顔が広がっています。これからますます成長が著しい時期と言えますのでみんなが着実な成長をしていけるようによく見守っていきたいと思います。



うさぎぐみ(1歳児)だより



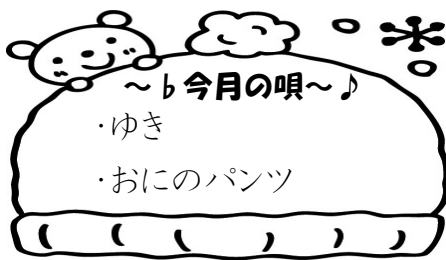
年末年始の間、お家でゆったりと楽しい日々を過ごし元気パワー充電バッチリなみんなが元気に登園してくれ、新年がスタートしました。まずは凧揚げ、福笑いや絵合わせカードの神経衰弱を月齢上の子と一緒に正月遊びを楽しみました。お手製のビニール袋の凧は走ったら走っただけフワッと浮揚してくれたので楽しむことが出来ました。神経衰弱は月齢上の子の様子を見よう見まねで覚え、ゲーム参加して楽しんでいました。最近、みんなは手先が器用になってきたので指に乗せる糊の加減やピンポイントで貼り付けも上手になってきました。みんなはこれから自我の芽生えから自己主張をするという成長過程ですから、みんなと一緒に活動する際、よく見守っていきたいと思います。



ぱんだぐみ(2歳児)だより



新たな年を迎え、一新された壁画や声に出して読みたい絵本の「十二支」をロザミながら「今年は辰年！」と大まかな時間感覚がつかめるようになってきつつあるのには確かな成長を感じています。お正月遊びはお手製凧揚げ、ダルマ落とし、福笑いに絵合わせカードの神経衰弱で楽しいひとときを過ごしました。公園では、いつもの「かけっこごっこ」に加え、お手製のビニール凧揚げが加わって身体がポッカポカになるくらいに元気に走り回っていました。神経衰弱は始めの内は「むずかしい〜」を連発していましたが、次第に記憶力が冴えていき面白くカード当てができていました。最近椅子取りゲームのようにお約束事のある遊びが好評で、それを通じ、「(座れなかった際の)我慢すること」も学びの一環として見守っています。残された園生活を今まで以上に満喫しながら年度末を迎えられるようにしていきたいです。



〜今月の唄〜

- ・ ゆき
- ・ おにのパンツ

〜保育のポイント〜

脳に関する考察が随分と進み、生まれたての赤ちゃんの脳は400グラム(成人は1400グラム(くらい)、1千億個の神経細胞から成っていることが分かってきました。謎「三つ子の魂百までも」やイタリアのモンテッソーリ女史の「胎生的吸収精神」の「大人はもう失っているが、これは神様の創造力にも比すべき非常に不思議な力で、赤ちゃんが生まれ落ちた環境から刺激を受け、環境に適合する素質を身につけるなどして用がすめば、急速に消えていく」は、赤ちゃんから3歳くらいまでの漠然とした驚異的な吸収力と表したもので知られています。このことを脳科学的に解明すると、脳の神経細胞が当初の数から落ち着いた数になり、(言葉など)外部からの刺激に対応して神経細胞同士が繋ぎ合わされて対応できるようになる作業(脳の可塑性)が最高潮に達すると共に、神経細胞同士を繋ぎ合わせる神経線維に(グリア細胞という膜)絶縁膜が張りつけられることによって情報処理が正確に行われる脳の構造がほぼ出来上がるのがこの時期だと分かってきたことから理解できるところとなってきました。こうして脳の伝達スピードが速まり、脳の情報処理能力がそれまでに比べて格段に高まった結果、コンピュータでいえば、「ハードウェア」にあたる部分が完成した、ということになります。ですから、その頃に覚えたことは決して忘れることはないという意味で諺を裏付けることに繋がっていますし、人間の基礎づくりで大事な時期の養育環境を再考する一助になればと思います。

〜わらべうたがこどもを救う(大島清著)及び赤ちゃん・幼児の知力と才能を伸ばす本(七田真著)より抜粋〜



給食だより

節分とは文字通り、立春、立夏、立秋や立冬の前日を指し、季節の分かれ目を指します。なかでも、古来より一年のはじまりの元日のように「立春」前日の節分が特に大切にされたことを受け、その風習が現在は受け継がれています。食事や医療も十分とは言えない昔は病気が災害など悪いものは全て「鬼」の仕業とされ、大豆などは「穀霊」と呼ばれる精霊が宿るものと信心されたことから(悪いことニ)鬼退治に最適とされ、豆(魔の目に豆をぶつけ、魔を減ぼす、の魔滅(まめ))まきに使用されてきています。季節の変わり目は体調を崩しやすいのでこのような風習が続いているわけですね。特に、冬から春へとそんな季節の移りかわりに元気に過ごしていくためには栄養価の高い旬の食材を取り入れていくことが肝要と言えます。まずは、エネルギー源であり、ビタミンCやむくみ予防のカリウム、食物繊維豊富で便秘解消に役立つ「新じゃが」や「タケノコ」が挙げられ、ポテトサラダや煮物や天ぷらなどで舌鼓を打つことができます。また、カリウムやマグネシウムなどのミネラルやビタミンB群を含む「菜の花」はお浸しや炒め物がお薦め。他にも、葉がしっかりと巻かれた冬キャベツは免疫系の働きを支えるビタミンCを豊富に含み、煮崩れしないためにロールキャベツなどの煮物に最適。野菜以外の旬の美味しい食材として「ヒラメ」や「はまぐり」などもあり、畑の肉の大豆などと組み合わせ摂取することで寒暖差のある時季の体力維持や増強に最適だと思います。季節の変わり目をしなやかで元気に過ごしていくようにしましょう。

〜行事予定〜

- ・ 節分会・・・2日
- ・ 英語教室・・・9日
- ・ 体操教室・・・13日
- ・ 身体測定・・・15日
- ・ リトミック教室・・・19日
- ・ 誕生会・・・22日
- ・ 音楽会(2歳児)・・・26日
- ・ 避難訓練・・・28日

